

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業・保育所等訪問支援事業ひまわりクラブ		
○保護者評価実施期間	令和7年1月27日		～ 令和7年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 26名
○従業者評価実施期間	令和7年2月3日		～ 令和7年2月3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2名
○訪問先施設評価実施期間	令和7年1月27日		～ 令和7年2月20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	10施設	(回答数) 9施設(11名)
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月8日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援事業ひまわりクラブをご利用して頂いている方への訪問を行っている為、アセスメントがしやすい。	保護者の同意があれば、早め早めの対応ができる。	園や担任と情報共有しやすい環境と時間をつくる。
2	アセスメント表に記録し、その後、分析や検証を行う。	ABC分析をもとに行動を分析している。	定期的に学習会を行う。また、各自、自己研鑽に努めている。
3	就学や就園等、移行支援を行う時は、支援内容等の情報共有相互理解を図っている。	保護者の依頼があれば、情報提供書の作成を行っている。	情報提供書に基づいて、移行支援会議を行う時間を設定すること。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問時に、特に教具教材を使用していないこと。	訪問先(園や学校)で、使用することが望ましいかどうか、悩むところである。	・訪問先との連携と情報共有(どこまで、直接支援をしているのか?)の確認 ・連携会議の時、わかりやすく説明ができる教具教材の準備をする。
2	第三者による外部評価を行っていない。	費用がかかる為。	管理者と相談する。
3	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携はしているが、訪問先施設や担任等の意向がしっかりと聞き取れていない。	訪問先施設の担当者や担任と、電話で子どもの様子を聞いてはいるが、保護者のニーズが優先になる為。	訪問する前の初回の電話で、利用者の園での様子を聞く際に、担当や担任の意向も聞く。